

# “アワいち”の激坂、絶景、エイドに大満足!!



●「先頭でスタートしたかったから3時40分に来ました！」と意気込むのは、地元兵庫から参加の岡本昌大くん(中央)と東俊宏くん(左)



●愛知、静岡から参加のフィエルテ(仏語でほこりの意)のみなさん。初参加からフル参加までそれぞれ、和気あいあいとしたいいチームでした



●兵庫から参加の沖田景亮さんと山中啓史さん。どちらも淡路島ロングライドは初めて。今回は9人で参加とのこと

●このイベントのオウイシところの1つが、ASのおいしい食べ物。いろいろな具材の入ったパンやおにぎりがあることに加え、プリンやおしるこ、たまねぎスープなど各ASでしか食べられない食事が用意されている。食べるだけでも存分に楽しめてしまう



●松阪牛、神戸牛、近江牛などの畜産にもなっている“淡路牛”。いつかは食べたい淡路ビーフだけど今回はおあずけ



●道中にあるアイスクリーム屋「G.ELM」が大人気! お金を持たずに走ったことが悔やまれる……

エイドも超充実!



前夜祭が充実!



●イベント前日の前夜祭では、さまざまな催しが行なわれた。淡路島を拠点に活動を行なうアーティストやダンサーのパフォーマンス、そして豪華景品がもらえるじゃんけん大会などなど。来年参加する人はぜひ訪れてほしい

関西の有名ツーリングスポット淡路島を一周(アワいち)する淡路島ロングライド。その知名度は年々高まり、3回目を迎える今回の参加者数は2100人に増えている。今年から中学生も参加可能になったことで、全国各地からやってくるライダーの年齢は、14歳~84歳と幅広い。ウワサに聞くアワいちとはどんなものかを編集部・岩崎が体験してきた。



# 2012淡路島ロングライド KEIRIN

# 150



開催日●2012年10月14日(日)  
開催地●兵庫県・淡路島  
主催者●2012淡路島ロングライド実行委員会  
ウェブ●www.awajishima-longride.jp  
text ●本誌・岩崎  
photo ●吉見幸夫/  
本誌・岩崎



えっちらおっちら立川の上りを越えて下り終えると、遠くまでまっすぐにのびた海岸線の道「南淡路水仙ライン」が現われた。  
潮が大きく動いているのか? 高い波がところどころ堤防を越えて道まで届いている。消波ブロックにぶつかるときのしぶきの激しさに驚き、そしてそこを通りすぎるときに海水のミストを体に浴びて、爽快感を味わう。「あれはパインクルサーフィンだよ!」とは、アソスの日本代理店のボス、デイヴィッドさんの名言だ。  
灘ASからは淡路島最大の難所が訪れる。灘地野、阿万塩屋町、大鳴門橋の上りだ。平均勾配は8~11%で最大勾配は15%ある。これも短いけど、走り込んでいない僕にとっては、ツラくて楽しい坂だった。上りの「道」は嫌いだけど、その景色の美しさは心に残る。うねりながらピークへ向かう道と大自然の対比、上った先に見えたロングビーチは心に響く絶景だった。  
慶野松原ASに到着。それにし

でもASの充実度がすごい! おにぎり、パン、おしるこなどなどバリエーションが豊富で、そしてどれもおいしそうで何を食べるか迷ってしまうほどだった。ASごとにそこしか食べられない補給食があるので、ASは絶対にスルーできなかった。  
フィニッシュまで約50km。島の西側を走る「淡路サンセットライン」を行く。前半で走った東側より家々は少なく、クルマも少ない。海沿いには漁村がいくつかあり、少し山側に道が曲がれば、田園風景といくつもの用水池を通り過ぎる。心安らく田舎風景とまさにこのことだ。島の北側に近づくと、海の向こうには神戸の街が見えてくる。  
「もうフィニッシュなんだ」。なつかしいような、寂しいような……。旅の最後はいつもこんな気持ちになる。だから、また旅に出たくなるんだろうけど。大自然を満喫して、ウマイもんを食べて、人と触れあう、そんな最高のロングライド旅を体験することができた。

ロングライドイベントの楽しみは旅なのだ!と淡路島ロングライドに参加して思った。  
スタート地点の国営明石海峡公園。早朝に集合して順番を待つのは駅のホームで電車を待つ様子と似ているし、自転車で行くことは車窓からの景色をのんびりと眺めることに似ているからだ。  
しかし! ちゃんと旅にできるかどうかは自己責任。僕の場合、毎度ながらオーバーペースでみずからの首を締めてしまうのです……。「今回こそは楽しむぞ!」と気合いを入れて、のんびり走ることを心に誓うのでした(笑)。  
スタートしてしばらくはほぼ平坦の海岸線。空が少しずつ明るくなっていく様子は、朝の澄んだ空気と相まって爽快。  
前にも後ろにも多くの自転車乗りの姿があるっていうのは、なんだかうれしくなってしまう。普段ならハイな気持ちのまま、後ろから走ってくる人のペースに合わせてしまうのだけど、今回は絶対ナシ! 洲本エイドステーション(AS)の先にある上りに備えた。話は変わるけど、ここ淡路島の地元の人々の声援は本当にすごい。道中の至るところで「ガンバって!」と声をかけてくれる。洲本でハテな容姿で声援を送ってくれたオカマちゃんにはビックリしたけど(笑)、それも含めていい思い出なのである。  
さてさて、洲本ASを過ぎると、上りがちらほらやってくる。標高でいえば最高でも150mほどで、距離は短いけど、どれも急勾配だ。